

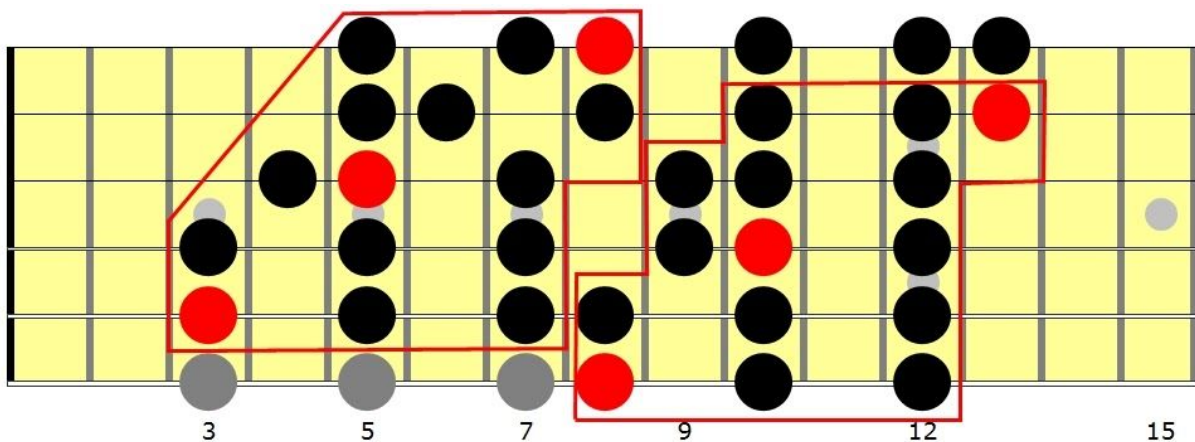
スケールを覚えるコツを掴み完璧にマスターする講座 スリーノート・パー・ストリング編vol.08

前回までで、アイオニアン(メジャー)スケール3nps時の、5&6弦トニックのポジションを全て確認しましたね。

なので今回は、同じメジャー系スケールである、リディアン&ミクソリディアンスケールを弾いてみて、これら2種類とアイオニアンの違いを、3npsの観点から見ていきたいと思えます。

ではまずは、これまで弾いていたアイオニアンのポジションを一度見返しておきましょう。

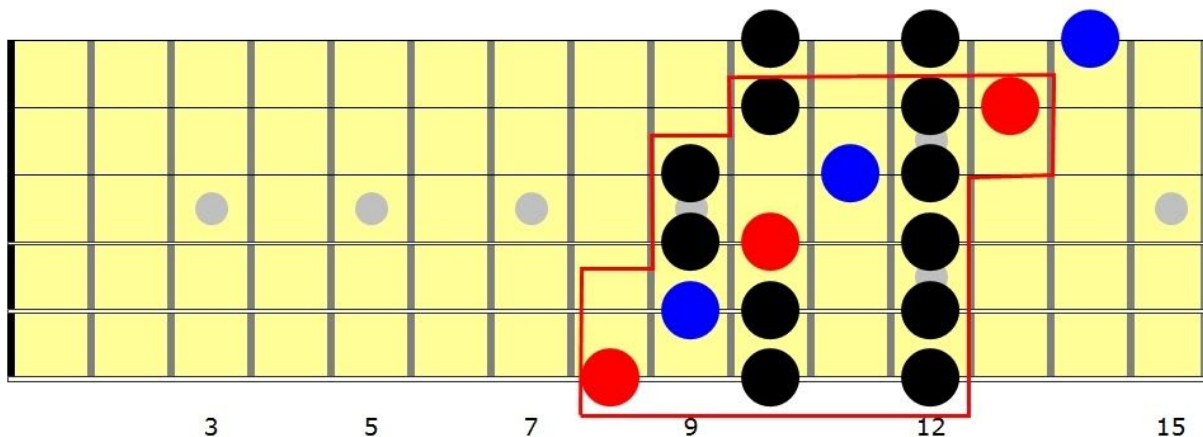
図1、アイオニアンスケール、3nps、5&6弦トニックポジション



5、6弦トニックどちらのポジションを先にやっても良いのですが、とりあえず6弦の方を基準に考えてみましょうか。

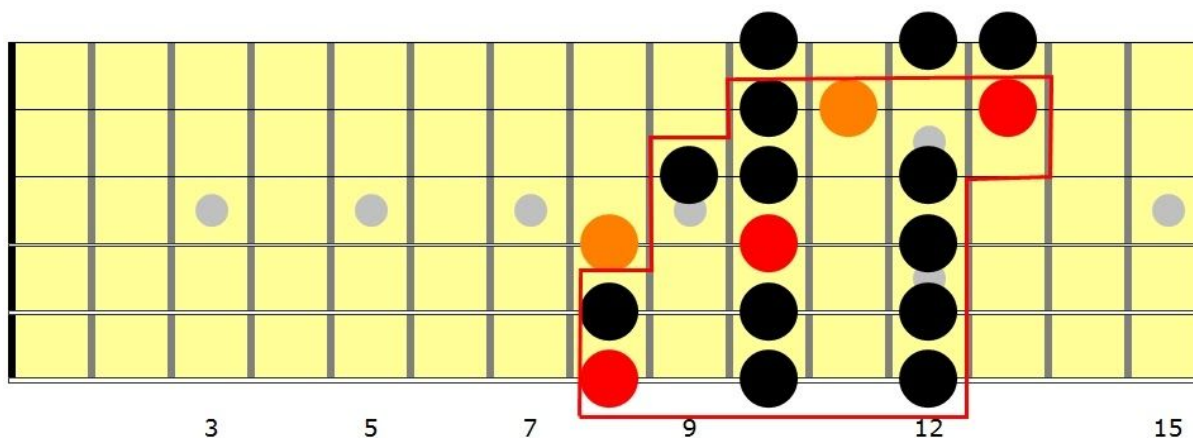
ということで、リディアンとミクソリディアンのポジションはこちらです。

図2、リディアンスケール、3nps、6弦トニックポジション



※青丸がアイオニアンスケールとの違い、赤枠はアイオニアンの形です。

図3、ミクソリディアンスケール、3nps、6弦トニックポジション



※黄丸がアイオニアンスケールとの違い、赤枠はアイオニアン形です。

他の教材でも書いていますが、インターバル的には、

- ・ アイオニアンスケール
tonic、M2nd、M3rd、P4th、P5th、M6th、M7th
- ・ リディアンスケール
tonic、M2nd、M3rd、**#4th**、P5th、M6th、M7th
- ・ ミクソリディアンスケール
tonic、M2nd、M3rd、P4th、P5th、M6th、**m7th(♭7th)**

になりますね。(※色違いが図の変化に対応)

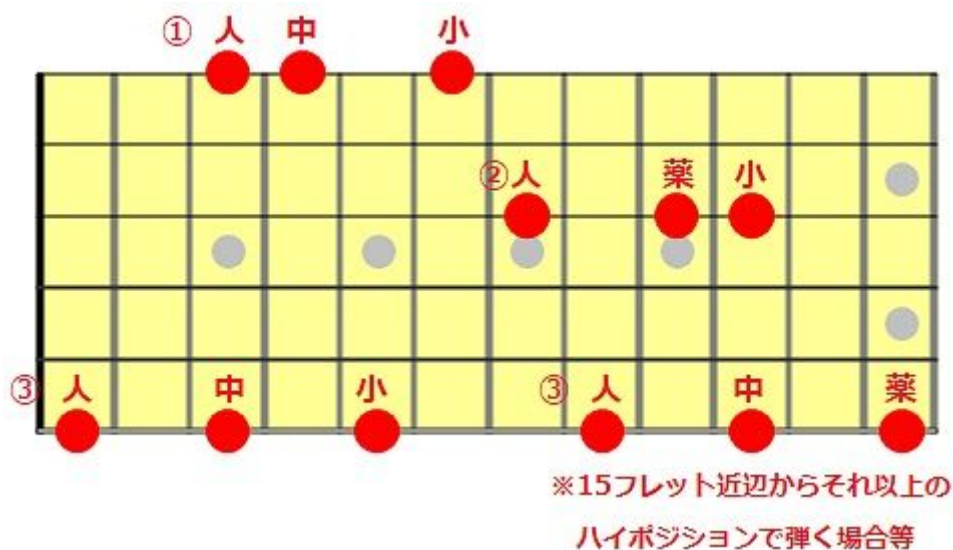
これまた、いきなり6~1弦までの全範囲で覚えようとする中々大変なので、まずは1オクターブの範囲で見えます。

譜例1、チャーチモード、メジャー系3種のスケール比較

※アイオニアン、リディアン、ミクソリディアンの順になっています。

最初のトニックから1オクターブの範囲で見ると、2~3弦間のチューニングのずれが無いので、5、6弦どちらのポジションで見ても形が同じですね。(※5弦トニックの方でも確認してみましょう)

それぞれ、これまで参考にしてきた、この指使い方法に対応しています。



この様に、単純に構成だけ見れば、どちらのスケールもアイオニアンとは構成音が1音違うだけになります。

なので、それぞれ形を丸暗記するのも良いのですが、どこがどう変化しているのか？、それらを確認しながら練習していくと、記憶の補助となり習得も早くなっていきますね。

次に、同じポジションで、さらに1オクターブ上の範囲を見てみましょうか。

図4、リディアンスケール、3nps、6弦トニックポジション、その2

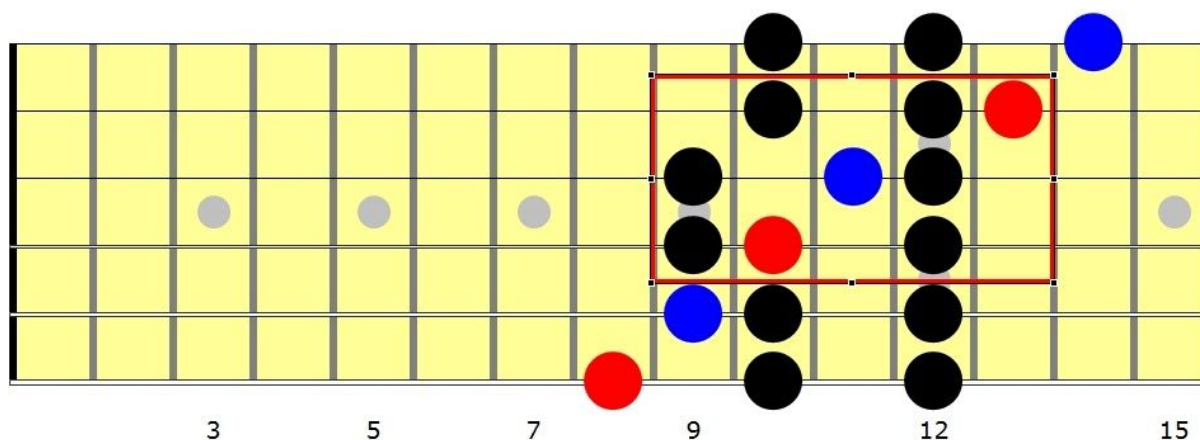
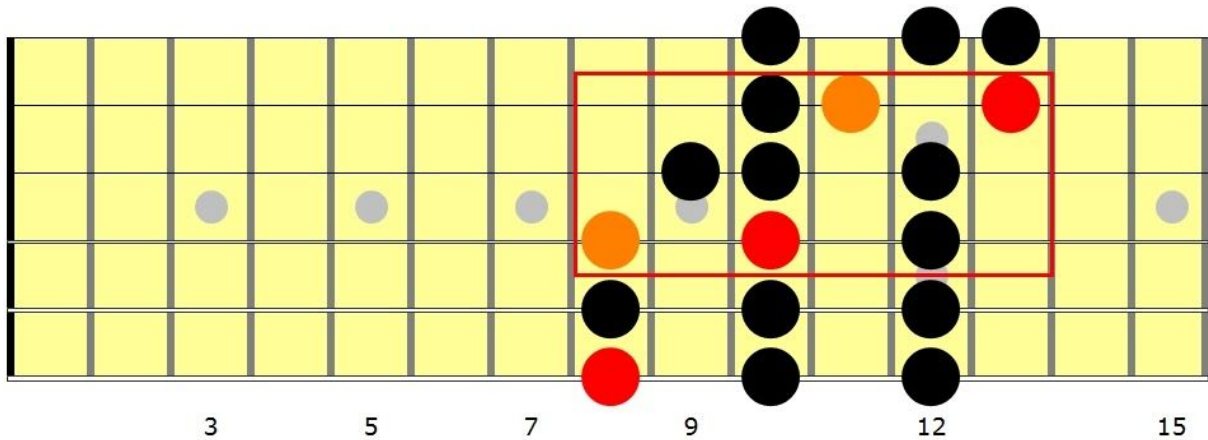


図5、ミクソリディアンスケール、3nps、6弦トニックポジション、その2



練習譜例は以下になります。

譜例2、チャーチモード、メジャー系3種のスケール比較、その2

※こちらもアイオニアン、リディアン、ミクソリディアンになっています。
 ※※先ほどの指使い図の通り、トニック(4弦10フレットC音)を中指から始めます。

こうしたシンプルな譜例はサラッと弾いてしまいがちですが、特に音の配置もインターバルも把握しきれていない最初の内は、ゆっくり、じっくり吟味しながら弾いた方が頭に入ります。

テキストvol.05でもお話ししましたが、「トニック(もしくはその時基準にする音)にこの指を置いたら、その周辺にはこの様に音が配置されている」という感覚や法則性を掴みましょう。

これから弾こうとしているスケールの、先のページに載せた指板図の様なものが、ギターの指板を見なくても、さらにはギターを持っていなくてもイメージできるくらいが理想です。

最初は大変に感じるかもしれませんが、順を追って学び、構成に慣れてくるとそこまででもありませんので焦らずに行きましょう。

それでは、今回は以上になります。

ありがとうございました。

大沼